

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー結果

(経済産業部)

事業	8	事業名	しずおかジョブステーション運営事業費
----	---	-----	--------------------

1 基本情報

実施日／班名	9月6日 第3班	時間	14:20~15:20
担当課名	雇用推進課	事業費	85,300 千円

2 レビューの結果 施策目的に対する効果の程度

結果	一定の効果がある	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	5
			一定の効果がある	17
			あまり効果がない	10

3 県民評価者の意見（レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された意見）

(1)見直し・改善策

目的・指標	<ul style="list-style-type: none"> この事業の予算が0円だと、アウトカム指標の完全失業率は100%なのか。定量性による説明が必要。事業の内容はよい。効果の説明に数値がほしい。 2つのアウトカムが適切ではない。 雇用環境を底支える良い施策だと思うので、PDCAを回し、効果を向上できるように継続・拡大いただきたい（正に官が担うべき社会的フェールセーフであり必要）。その役割上、成果的アウトカムばかりに注目するのではなく、プロセス的アウトカム（例：相談件数）も説明上使用し理解しやすい。※相談できることが大切という側面大事にしてほしい。 趣旨が不明確。ハローワークとの違いが分からない。
対象・範囲	<ul style="list-style-type: none"> 県内の端（湖西市）に住んでいるが、ジョブステーションの話を全く聞かないので、過疎地にも出張所がほしい。 県内どこにいてもジョブステーションの所在地と同じ支援が受けられるよう、サポートしてほしい。 既存の3箇所以外にも、週一度でもよいのでジョブステーションを増やしてほしい。ハローワークとジョブステーションを統一してもよいのでは。 3施設しかないが、市町村役場等の身近な場所で行ってほしい。心の深いところまで話ができるなら、福祉の立場で行ってほしい。 ジョブステーションは少なくとも1市に1箇所必要ではないか。求職者全員が働くことが出来れば税収が増えるのではないか。支出は究極なまでに絞らなければならないが。 イベント業務の中に「ママのお仕事応援フェア」というものはあるが、ママ以外の人たちを対象としたイベントはなぜないのか。 しずおかジョブステーションとハローワークの役割の違いをはっきりさせる。仕事として被ってしまっているところは仕方が無いが、解決策として県内にあるハローワークとともにしずおかジョブステーションを置くようにする。そうすることで、しずおかジョブステーションを相談窓口として、何をやりたいかはっきり決めてから、ハローワークに案内するという体制が取れるようになるのではないだろうか。対象が対象なだけに、深く相談できる相手は必要である。 県の事業であるならば、都市部への支援より小さな市町に気を配るべきです。

事業内容

- ・地方こそ就職する場が少なく、また広域では地域の就職に結びつくか疑問。ジョブステーションでの相談は専門的な内容に絞って、市町と連携していく方が効果的ではないか。
- ・ジョブステーションの業務内容を、市町の広報紙等を通して周知してほしい。
- ・県の行う事業には思えない。市町が行うべきことで、市町がハローワークと連携することが一般市民のためになるのではないか。そのために県職員がフォローする体制がよい。
- ・ハローワークの充実をもっと図るという方法はないのだろうか。事業の重複の解消が望ましいが、いろいろな機関がいろいろな立場でいろいろな方法を進めていくのは良いかもしれない。整理も大切だが、様々な機関があったほうが相談しやすいかもしれない。行く人が選べる。
- ・ワンストップの考えはよい。では、この次はどうするのか、市町への対応を検討してほしい。
- ・就労支援事業を長く行っていると、ある程度利用者のパターンが見えてくるはず。県としてはそのパターンに沿って、効率的に就労支援を行った方がよい。例えばハローワーク等で行われていることは県はやらないといったように、県と国の二重行政を防ぐ努力も必要になる。
- ・利用者の立場に立って、きめ細やかなサービスの提供ができるように、さまざまな工夫をしてサービスの拡大を図っていただきたい。ハローワークの中に組み込む。時々出張相談として存続するような程度でよいのではないか。事業として行い、毎日開いている必要はあるのか。需要がとてもあるのなら、市役所の一部間借りも可能ではないか。
- ・ジョブステーションが認知されるための情報発信がされていない。
- ・身近にいろいろ相談できる場所が多数ある方が便利でよい。マザーズシニアでは遠くまでは行けない。
- ・臨床心理士の活動を増やしてほしい。
- ・ジョブステーションできめ細かく就労相談を受けていることを、今回のことで初めて知った。ここの部分の宣伝をもっとしたらどうか。利用者も増えるのではないか。
- ・就労のためにきめ細かな対応をしてもらえるということは、本当にありがたいことです（まだ実際に受けたことは無いですが）。市民にとっては、市の窓口のほうがより身近かもしれないが、市民にとって良いシステムならば、市も県も関係なく行ってほしい。受ける側からすればどこがやっても同じ。
- ・就職相談ではなく、メンタルサポート、スキル育成等に絞ったらいかがか。いずれにしろ、県内3か所でしかないのでは、有効活用は行えないのではないか。
- ・一人ひとりの心に迫るのなら、身近なところで情報セキュリティのしっかりした市町に任せられた方がよい。
- ・出張相談は必要。年に何回か伊豆や富士、島田等で開催すべき。ジョブステーションとはハローワークが同じように感じるので特性をもっと出すべき。
- ・コストをかけてでも質を上げるべき。ハローワークにない柔軟性を求めて、外にサービスに行ったり、心の相談の機会を増やしたりするべき。時間とともに変化する求職者に対して、随時サービスを変化させる。
- ・長期的には市町への移譲も考えられるが、質が下がることのほうが問題（最後のフェールセーフらしく、高い質は確保・維持すべき）。
- ・ジョブステーションとはハローワークの区別について、ジョブステーションではプラスアルファの方向性として静岡特有の職業（ものづくり・ものづかい）を紹介してはどうか。
- ・ジョブステーションの運営体制を見ると、相談者の数に対して対応する職員が少ないと感じる。臨床心理士についても、ジョブステーションに来る相談を受けたい方は、時間をかけて心の内面までも相談したい方がたくさんいるのではないか。
- ・ハローワークに比べ知名度が無いので、有効な活用がされていると感じない。本当にジョブステーションを必要としている人（専門委員の方が言っていた、ハローワークで足りる人を除いて）に対して予約の枠がどれくらい埋まっているのか知りたかった。
- ・ハローワーク、ジョブステーション、市町福祉センターの住み分けをして、より効率的に運用するべき。

事業内容

- ・「今、企業がどんな人材を必要としているのか」をはっきり調べておくと、どんな人に呼びかけて働く支援ができるかがより具体的になる。
- ・外国人支援のジョブステーションを充実させることがこれからは必要である。
- ・きめ細かな指導をしてあげないと就職を実現できないという人がいる以上、この機能を捨てるとは言わないが、使いやすさという面からすると市町に機能を移行していくべき。
- ・これだけ努力しても脱落したという人から事情を聞いて、行政から企業に「教育をしっかり行わないと企業団体が成り行かないですよ」という厳しいスタンスを向けるべきだろう。
- ・ハローワークと業務が重複している。総合庁舎内などでの当事業はあまり周知されているとは思われず、周知費用に対して判断すると、いっそのこと廃止してもよい。
- ・しずおかジョブステーションの存在は大きいのではないかと。今までにハローワーク等に足を運んだことが無いのでその実情も分からないが、ジョブステーションがハローワークよりも就労意欲のある県民の方の心に寄り添うものであるならば、大きな効果があるのではないかと。ただ議論でも出ていたとおり、もっと多くの地域にこのサービスが行き渡るとよりよい形になるのではないかと。
- ・事業を市町と絡めて考えていく必要がある。また、ジョブステーションに行かなくても大丈夫なように電話、webを活用した相談も進めていくべきではないかと（行く人にとって負担）。
- ・より一層、若年層が訪れやすい施設にするべきです。
- ・ジョブステーションに相談にきた人とは、どのような人が多いのか、どんなことを求めてきたのか。そういったことを踏まえた上で事業を見直すべきではないだろうか。内訳を明らかにし、就労者のニーズを知ることが大切である。ハローワーク等とそういったニーズを知る連携を積極的に取っていてもいい。
- ・ジョブステーションとハローワークの連携の効果を出すには、それぞれの利用者がどのような人で、どんな状況であるのかを知って事業内容を絞り込んでいくとよい。
- ・ジョブステーションが利用者に深く関わっていくというのが仕組みなら、臨床心理士と外国語通訳者を増やしても良いのではないかと。
- ・ハローワークとの区別が分からない。要は職業相談兼仕事紹介ならハローワークのみで十分。
- ・県でなければできないことを考えて事業を進めていくべきである。
- ・しずおかジョブステーションとハローワークの違いを、もう少し分かりやすくしてもらいたい。

(2)その他の意見

- ・県の仕事とハローワークとの違いがあまりよく分からない。地元にはジョブステーションはなく、所在地に出向いてまで利用するのか。
- ・個人の求職ニーズに答えるためにジョブステーションは必要だ（特に若い20～30代の母親）。
- ・ハローワークとの違いがよく分からない。
- ・ジョブステーションの必要性が見えてこない。
- ・ハローワーク以外にこのようなものがあるということが分かっただけでも良かった（とりあえず求職の状況ではないため）。
- ・働くことに関して、その大切さを知る（知らせる）活動を受け身ではなく、積極的に行っていく必要を感じる。
- ・景気の良し悪しでニーズが異なってくるのかもしれない。
- ・就職がなかなかできない。いわば弱者に対する支援としてとても意義のある業務だと思う。
- ・ジョブステーションの近くの人には知っているが、どのくらいの人がこの施設を知っているのか。どう考えても近くのハローワークに行こうと思ってしまうはず。
- ・ジョブステーションの良さがよく分からない。
- ・内容は良いが、他の場所でもやっている。
- ・公務員は総じて悪口を言われるが、若者の就職支援という高い使命を負っているわけですから、日々の業務に自信を持って、公僕としての役割を果たして欲しい、頑張れ。

- ジョブステーションに来られた相談者数の延べ数を知りたい。
- 細かいところまで気を配って大変な努力をされて、それに見合う効果があると思う。こういったサポートを受けたいと思っている人はたくさんいるので、地域ごとにそういった人がどれだけいるかわからないが、サポートがいきわたるように努めてほしい。
- ポルトガル語圏ではない外国人が来ることがあるのか、あるいは来たらどうするのか気になった。
- 外国人労働者は、なるべく取り入れないほうがよい。すでに在住している人はいいが外国人労働者をに入れてしまうと若者や中高年齢者などの就職活動がしづらくなる。
- ハローワーク（17箇所ある）に新たなジョブステーションを作る、もしくは出張所を作ることは出来ないのでしょうか。
- 事業の指標としてはとてもよいものがあるが、内容のミスマッチが少し目立つ感じがする。
- 相談業務は今後も継続・推進していただきたい。生活に困った人が安定した生活を確保する上で、十分に機能している（弱者保護として重要な位置付けとなる）。
- ハローワークとこのジョブステーションの違いがあまりわからない。自分が知っていたのは、ハローワークだけだった。県で東部、中部、西部で5名、5名、6名と就職サポーターがいるというのは、人数が多いのではないかと。それだけ利用者はいるのか。1回1時間、予約優先で実施されているというのだが、P118の相談者数というのは、延べ数だと思う。その延べ数はどのくらいか。あと予約枠は何%ぐらい埋まっているのかを教えてください。